

第9回

新潟人間生活学会

2018 7/22 日
SUN

12:30 - 16:30
入場無料

【会場】 新潟県立大学 大学院棟

| ポスターセッション | 4101 講義室前フロア | 企画セッション | 4101 講義室
〒950-8680 新潟県新潟市東区海老ヶ瀬 471 番地

第1部 12:30~13:30

【会場】 4101 講義室前フロア

ポスターセッション

(60分)

第2部 14:00~16:30

【会場】 4101 講義室

企画セッション

司会/子ども学科 学科長 齋藤 裕

● 学会長挨拶

人間生活学部 学部長 村山 伸子

● シンポジウム

病児保育の現状と課題 ～より良い病児保育の実現を目指して～

コーディネーター/健康栄養学科教授 田邊 直仁

○基調講演 「病児保育とは? 病児保育の歴史と現状」
佐藤 勇 先生 よいこの小児科さとう 施設長 (医師) (30分)

○事例報告1 「保育に関する現状と課題」
遠藤 愛 先生 病児保育室よいこのもり 保育士 (10分)

○事例報告2 「食事に関する現状と課題」
浅井 志保 先生 病児保育室よいこのもり 保育士 (10分)

○事例報告3 「病児保育用おかゆとレシピ集の開発」
太田 亜里美 健康栄養学科准教授 (10分)

● 総合討論 (30分)

● ポスター賞発表・贈呈 人間生活学部 学部長 村山 伸子

● 閉会の挨拶 健康栄養学科 学科長 金胎 芳子

シンポジウムの趣旨

病児保育の現状と課題

～より良い病児保育の実現を目指して～

病児保育という言葉を知っていますか？ お子さんが病気にかかったとき、「付き添っていてあげたいけれど、もう仕事を休むことができない・・・」「子供の体調はよくないが、どうしても外出しなければならない・・・」そんな時頼りになるのが病児保育です。病気のために集団保育に支障がある保育園・幼稚園等に通園している乳幼児や一般家庭で病気のために保護者の都合により育児が困難となった乳幼児等を、専門家集団（保育士・看護師・医師等）によって看護と保育を同時に行い、一時的に預かる事業です。

保護者が安心して病気のこどもを預ける場が提供される一方で、病児保育室の空きの心配や昼食を準備する苦勞など、病児保育を通して病児保育のシステムや家庭の問題、課題がみえてきています。

病児保育の歴史や仕組みのほか、病児保育の現場で働く医師、保育士らが感じている問題・課題についてご講演頂き、今後の病児保育を通した子育てサポートについて考えていきたいと思います。

【アクセス】



〒950-8680 新潟市東区海老ヶ瀬 471 番地
TEL:025-270-1300 FAX:025-270-5173
<http://www.unii.ac.jp/>

公共交通機関ご利用の場合

- ◎「新潟駅」万代ロバスターミナル11番のりばから
「大形線」に乗車（所要時間約25分／片道330円）
「県立大学前」下車、徒歩2分
- ◎JR白新線「大形駅」下車（所要時間約10分／
「新潟駅」より片道200円）、徒歩約15分
- ◎「新潟駅」からタクシーで約20分

